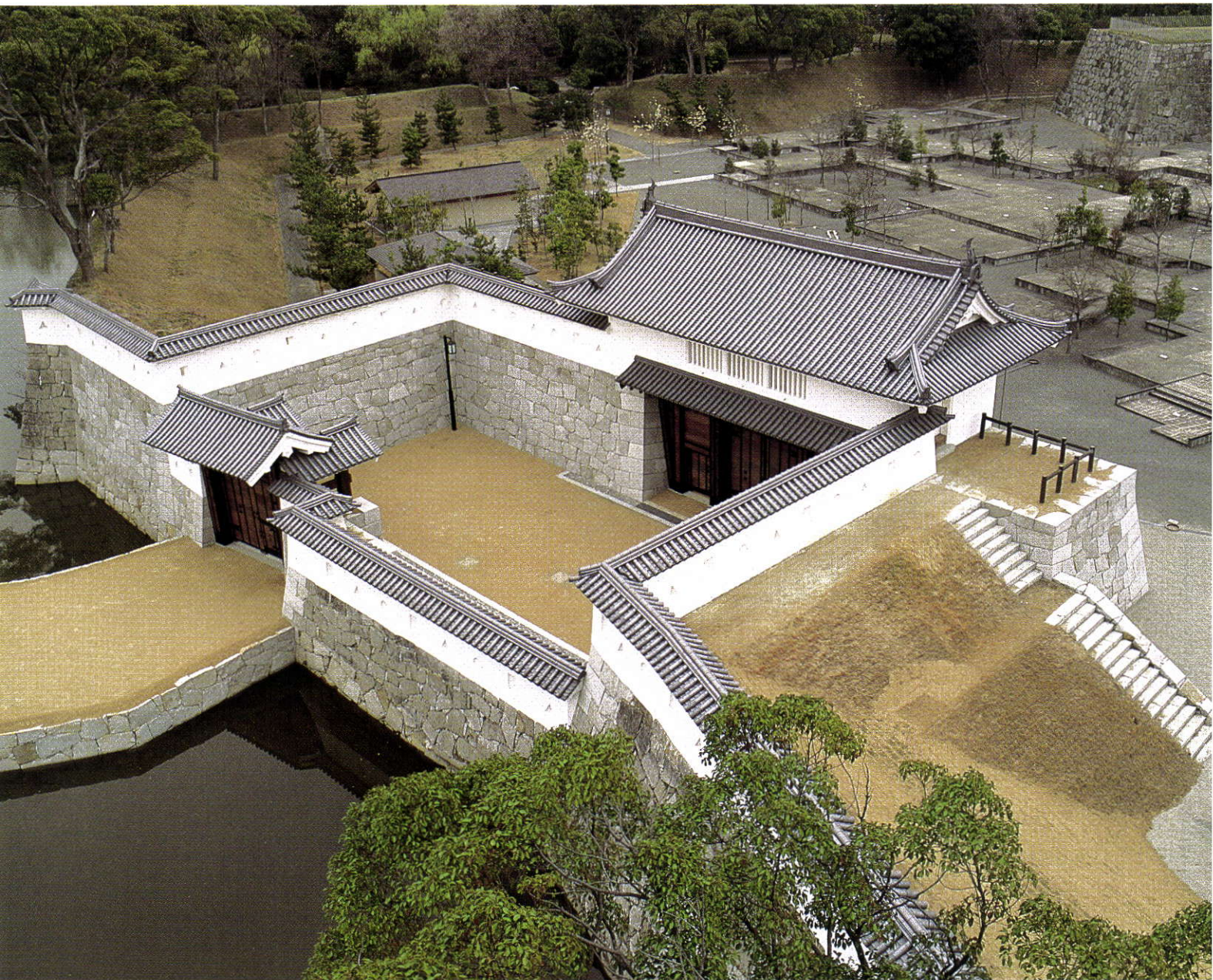


国史跡
赤穂城跡 本丸庭園



本丸門全景（航空写真）

赤穂市教育委員会

本丸庭園

本丸の面積は約15,114㎡あり、その3分の2は領主屋敷、番所、倉庫等の建物と天守台、池泉によって占められ、残る3分の1が空地になっていた。空地は、「くつろぎ」と呼ばれ、戦時の兵士活動場所として設けられた。

石垣土塁の大部分は打込みハギで、本斜、横矢屏風折、横矢斜、水燃がとられている。隅櫓台4箇所のうち、東北隅櫓台のみに二重櫓が建っていた。門は本丸門、厩口門（森時代には台所門）、勿橋門（裏口非常門）の3門からなり、本丸門は、一の門（櫓門）と二の門（高麗門）の多門で櫓形を構えている。

藩邸は、西側が大部屋を主とする表御殿、東側が小部屋を主とする奥御殿に別れており、南東に天守台、南に本丸庭園などが配置されていた。

明治の廃藩置県後田畑となっていたが、昭和3年兵庫県立赤穂中学校校舎が竣工された。昭和46年には赤穂城跡が国の史跡となり、昭和56年に校舎は城外に移転し、翌年より本格的に整備が始まり今日に至っている。末尾の（ ）は整備完了年を表す。



勿橋門

本丸の裏口非常門で、建坪5坪の小門であったが、二の丸へ勿橋が架けられていた。門の内側に腰巻石垣が延び、さらに登り石段があった。(1996)



天守台

四方石垣の独立したもので、当初から天守閣はつくられなかった。石垣は打込みハギを主としている。昭和12年に崩壊部と石段が修復された。(1985年)



厩口門（台所門）

浅野時代の名称で、森時代には台所門と通称されていた。森時代の厩口門は、二の丸東仕切門を指していたようである。建坪5坪の高麗門であったが門跡だけが残った。昭和42年に改造されたが、現在修理整備中である。



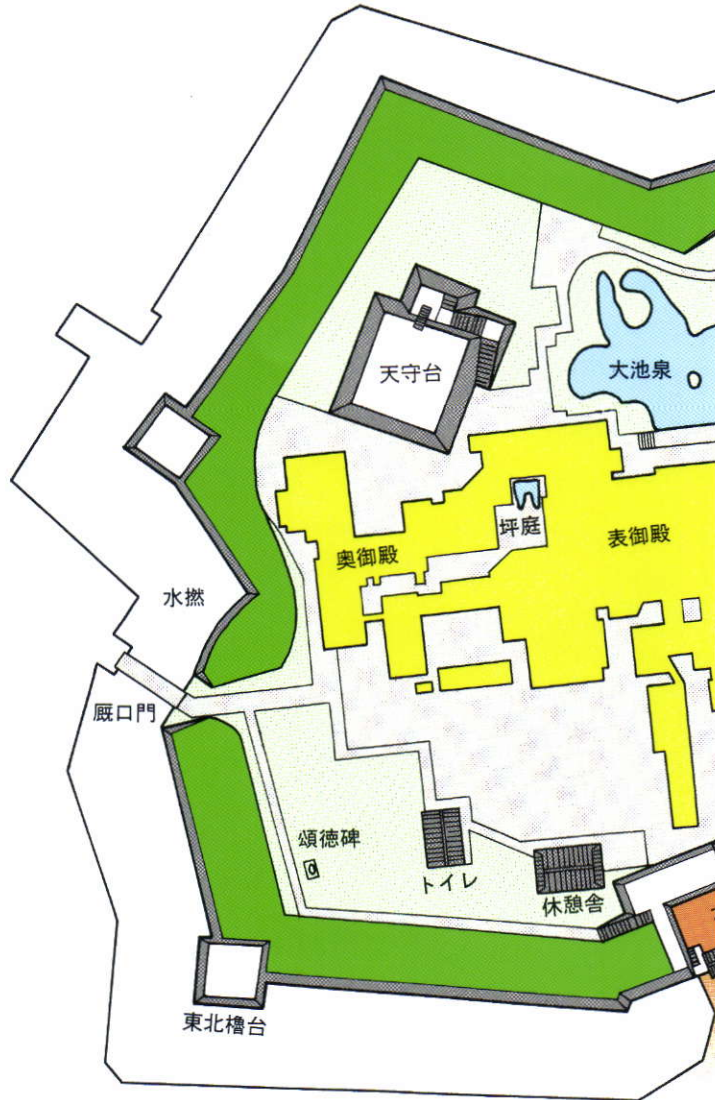
石川(壽輔)先生頌徳碑

会津生れ。陸軍少将退役後、旧制の兵庫県立赤穂中学校の初代校長を勤める。故郷の会津藩出身山鹿素行を敬愛する。没後、氏の業績を顕彰するため、昭和14年天守台北側に建立するが、平成元年現在地に移築する。(1889年)



休憩舎、トイレ

古図による小姓部屋跡に休憩舎、蔵跡にトイレを現代風に整備し、屋根瓦は松皮葺表現とした。(1991年)



本丸門全景



本丸門

木材には樺・松・杉など国産(内地)材を使用し、石材に赤穂産花崗岩を用いた伝統工法。二の門(小戸付高麗門)は木造本瓦葺切妻造り、幅4m、高さ6mである。(1996年)

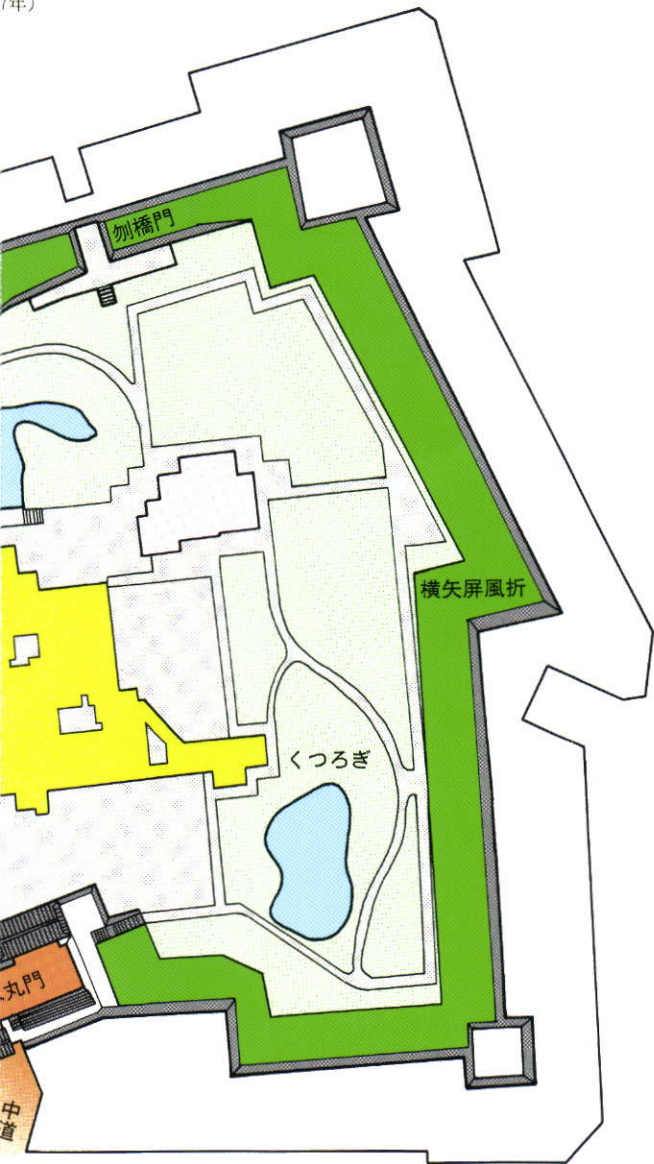
本丸門夜景



表御殿大池泉雪景色



。この門
、東西に
7年)



本丸櫓門



仕上げている。一の門（脇戸付櫓門）は木造本瓦葺入母屋造り、幅13m、高さ11m、



表御殿大池泉

発掘調査で全体の姿が明らかになり、東西38m、南北26m、外周約150mの規模である。中島、入江、岬を備え、池底には割石・瓦が幾何学的に敷き詰められ、護岸汀線は直線・曲線が巧みに組み合わせられ、趣ある造形を醸し出している。(1986年)



奥御殿坪庭

入水口に護岸石組、背後に築山を備え、やや緩やかな勾配をもつ漆喰玉石貼り（あられこぶし）の瀬せらぎ、二重の舟形淀、舳部分に余水除けなど珍しい作庭技法を取っている。(1987年)



表御殿 御殿は表御殿・奥御殿・台所に分かれる。表御殿は藩庁として公的用途に充てられ、明治維新以降においても郡庁事務を行った所である。南には藩主の居間があり、庭園が眺められた。発掘調査、古図類を基に間取りの復元表示をした。(1988年)



奥御殿

台所を中心に東側が小部屋を主とした建物で、藩主の私的部屋が並んでいた。(1989年)



くつろぎ（池泉）

古図ではくつろぎと呼ばれ、竹林が表現されていたが、発掘調査で池泉を発見した。浅野内匠頭、大石内蔵助など歴史上の人物名が記された木簡などが出土した。(1990年)

赤穂城の沿革

赤穂城は、正保2年に浅野長直が常陸国笠間から入封し、近藤三郎左衛門正純に築城設計を命じ、慶安元年より13年以上に亘る歳月を費やし、寛文元年に完成したものである。

城郭の縄張りや、近藤正純、山鹿素行の指導のもと甲州流軍学によるもので、本丸と二の丸は輪郭式、二の丸と三の丸の関係は梯郭式になっており、近世城郭史上非常に珍しい変形輪郭式の海岸平城である。城郭の規模は、10の隅櫓、12の諸門があり、曲輪の延長は2,847m、面積は63,711㎡に及んでいる。塁石、防壁、諸門、本丸御殿などが整えられ、居城としての威容が示されたが、天守台のみ築かれて天守閣は構築されなかった。

居城当初から城内に大石邸をはじめ藩重臣の屋敷があったが、浅野家断絶後は永井家、次いで森家の居城となり、明治の廃藩置県後、城塞は惜しくも取り壊され、屋敷地は民有地となった。三の丸に大正元年大石神社が建立、二の丸に大正14年山鹿素行銅像建立、本丸に昭和3年赤穂中学校が竣工された。

しかし、城跡は昭和15年風致地区に指定、昭和27年都市公園の計画決定、昭和46年国史跡に指定され、以後計画的に公有化と整備が図られている。

赤穂城関係年表

享徳年中 (1452~1454)	赤松満祐の一族、岡豊前守光景が大鷹の城の砦を築く。
文正元~文明15 (1466~1483)	岡豊前守光広加里屋古城を築く。
天正14年 (1586)	生駒親正が赤穂(6万石)に入部する。
天正年中 (1587~1591)	宇喜多秀家の家臣津浪法印某が代官屋敷を構える。
慶長5年 (1600)	池田輝政の末弟長政が在城する。(2万2千石)
慶長8年 (1603)	池田輝政の家臣垂水半左衛門勝重が郡代(知行500石)となる。
慶長18年 (1613)	池田忠継(3万2千石)の家臣垂水半左衛門が浦手奉行として一重の搔上城を築く。
元和元年 (1615)	池田(松平)政綱が赤穂に入封する。(3万5千石)
寛永18年 (1641)	池田(松平)輝興が赤穂に入封する。(3万5千石)
正保2年 (1645)	浅野長直が赤穂に入封する。(5万3千5百石)3代続く。
慶安元年 (1648)	赤穂城築城始まる。
寛文元年 (1661)	赤穂城完成する。
元禄15年 (1702)	永井直敬が赤穂に入封する。(3万3千石)1代のみ。
宝永3年 (1706)	森長直が赤穂に入封する。(2万石)明治の廃藩まで12代続く。
明治11年 (1878)	本丸藩庁解体される。
明治18年 (1885) ~	城郭建造物の荒廃により、次々と取り壊される。
明治25年 (1892) ~	二の丸門(虎口)付近の石垣が千種川災害復旧のため取り壊される。
明治30年 (1897)	大手門櫓形が改造される。
大正元年 (1912)	三の丸に大石神社を建立する。
大正12年 (1923)	大石良雄宅跡が国の史跡に指定される。
昭和3年 (1928)	本丸に兵庫県立赤穂中学校校舎が竣工される。
昭和27年 (1952)	都市公園の計画決定を受ける。
昭和30年 (1955)	大手隅櫓、大手門が完成する。
昭和46年 (1971)	国史跡の指定告示される。
昭和47年 (1972)	二の丸公園整備始まる。
昭和49年 (1974)	石垣修理始まる。
昭和57年 (1982)	本丸整備始まる。
平成8年 (1996)	本丸門復元が完成する。

参考文献 廣山堯道「播州赤穂の城と町」雄山閣より

利用案内

- 交通 JR播州赤穂駅から徒歩約20分
JR相生駅から車約25分
山陽自動車道赤穂インターから車約10分
- 開園時間 9:00~16:30 (入園は16:00まで)
- 休園日 年末年始 12月28日~1月4日
- 問合せ先 赤穂市教育委員会 生涯学習課 文化財係
☎678-02 赤穂市加里屋81番地
☎ 07914 ③ 6858

記念スタンプ